

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007

News vol.13



平成19年11月6日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



商用車(トラック、バス)

「環境」も「デザイン」も最先端を競う



▲北ホールにある商用車ブース



▲充実した室内装備の「日野セレガ・プレミアム」



▶いすゞ自動車が出展した「次世代尿素SCR」

商用車を含めた総合ショーとしてモデルチェンジした第40回東京モーターショー。商用車の展示は3年ぶりとなるが、JR海浜幕張駅に近い北ホールのトラック・バスなどを展示している商用車ブースは、外国人の来場者から子供連れの家族までいつも大盛況である。

地球温暖化対策はトラック・バスなどの商用車にも強く求められており、今回のショーでも「日本で、そして世界で、安全性や経済性とあわせて最先端の環境性能が問われている」(細井行・いすゞ自動車社長)として、それぞれの商用車メーカーは、二酸化炭素(CO₂)の排出量の少ないクリーンディーゼルやハイブリッドなど、環境対応の最新技術を競って紹介している。また、「国内だけでなく、最新の環境対応のトラックをアジアなどにいち

早く提供したい」(竹内覚・日産ディーゼル社長)と述べるなど、各社とも輸出をにらんだ海外戦略の強化をアピールしている。東南アジアなどの海外からの来場者が技術展示コーナーの前で足を止め、排ガス後処理システムの説明を熱心に聞き入るなど、「国際見本市」らしい光景がみられる。

一方で、商用車のブースには、「最高のおもてなしで観光バスの旅を楽しんでもらいたい」(近藤詔治・日野自動車社長)と、充実した室内装備の大型観光バスや斬新なデザインの都市型の次世代トラックの試作モデルも参考出品しているほか、乗用車を中心の日産自動車やスズキ、ダイハツなどのブースでもユニークな商用車のコンセプトモデルを展示。観賞に「試乗」に長蛇の列ができるほどの話題を呼んでいる。

「日野バストラパーク」と呼ばれる北ホール中央にある日野自動車の展示ブースには、大型観光バス、先進安全トラックASVの新コンセプトモデルなど参考出品車4台と最新の環境・安全技術などを展示。このうち、もっとも注目されているのがホテルの「スイートルーム」を思わせるようなファーストクラス大型観光バスの「セレガ・プレミアム」。“ゆったり、



「プロフィア ASVトラクター」

ゆっくり、贅を尽くす”をキャッチフレーズに広々とした室内はワイドな1列2席の本皮シートを使用した12人乗り。リッチな気分を味わってみたいと“試乗”を希望する来場者が殺到し、展示コーナーの前はいつも長蛇の列。現時点では市販は予定されていないが「ニーズがあれば検討したい」(説明員)。



リッチな気分になれる大型観光バスの「セレガ・プレミアム」

国産小型トラックでは初めてのフルキャブオーバー型として1959年に発売された初代「エルフ」も参考出品しているいすゞ自動車の展示ブース。今回のテーマは「グローバル・ライフ・パートナー」。新長期規制適合の最先端の環境技術を駆使した新型「エルフ」、「フォワード」などの市販車モデルを多く展示。技術展示コーナーには、PM(粒子状物質)、NOx(窒素酸化物)を排気前に浄化する排ガスの後



処理技術として「次世代尿素SCR」などを参考出品し、技術関係者の中から話題を集めている。さらに、ユニークな展示では「運ぶの未来と夢」をキャッチフレーズに3トクラスの小型トラックをイメージした実車の5分の1の未来コンセプトスタディモデルなども興味深い。



未来コンセプトスタディモデル「FL-III」(5分の1スケール)

三菱ふそうブースの展示で注目を集めているのは、未来的なデザインのダンプカー・コンセプトモデル「キャンターECO-D」。大型商用車としては異例の実物大モデルには、パラレルハイブリッドシステム、ゼロストレスの操作系を持つキャビンなど未来の商用車のビジョンが盛り込まれている。



注目の「キャンター ECO-D」

モーターショーのために黒に特別塗装された大型トラック「スーパーグレート」は、現在開発中の運行管理システム「エコフリートプロ」を搭載。車いす昇降リフトを備えた大型バス「エアロクイーン」は、来場者の人気の的となっている。ダイムラー・トラック部門と共同開発中の次世代クリーンディーゼルなど技術展示も充実。



大型バス「エアロクイーン」

日産ディーゼル

次世代排ガス規制に対応する新尿素SCRシステムが登場



次世代尿素SCRシステム

日産ディーゼルはワールドプレミアとして、NO_x浄化装置「次世代尿素SCRシステム」を参考出品した。同社は尿素SCR「フレンズ」をいち早く国内市場に投入したが、次世代システムではセンサー技術の高度化などによって尿素SCRの触媒浄化能力をさらに高めるとともに、スーパーPMクリーナーを触媒と一体化することで排ガスシステム全体の小型化も図る。

実車展示では衝突軽減ブレーキ、燃費向上のための装置などが追加されたマイナーチェンジ予定の大型車「Quon(クオン)」高速トラクター、海外向け大型トラクター「GW」を参考出品。また大型トラック「Quon」アルミウイングバンも展示している。



「Quon」アルミウイングバン

ボルボトラック

「環境効率」向上への取り組みをクルマ、技術展示で表現

VOLVO

スウェーデンのボルボトラックは世界最高クラスの安全・居住・環境性能をうたう日本市場対応の新型トラクター「グローブロッターXL キャブ」をワールドプレミア。またCO₂を最大35%削減するというボルボ・ハイブリッド、経済性とイージードライブ性を高める電子制御12速自動変速機「I-シフト」をジャパンプレミアとして出品している。

また、トラック単体の性能だけでなく、生産工程からリサイクルまでのトータルの「環境効率」への取り組みを進めている同社のフィロソフィを、廃車のリサイクル展示、CO₂レース・シミュレーターなどによりアピールしている。



廃車のリサイクル展示



「グローブロッターXL キャブ」

ヒュンダイ

世界戦略車「ユニバース」を右ハンドル化



やすらぎのモーターショーに展示されたヒュンダイのバス「ユニバース・日本仕様車」は、昨年デビューした世界戦略モデル「ユニバース」を右ハンドル化した参考出品モデルだ。日本への投入時期は未定で、これから本格的なリサーチを行う。排ガス規制については新長期をクリア、さらにポスト新長期にも対応できる見通しであるという。

TOPICS

「夢」と「こだわり」を売るファミリーとモリモト

今回の東京モーターショーのブースはジャンルが広い。クルマと直接関係はないが、「夢」や「こだわり」へのコンセプトはカーメーカーと共通するものがある。そんな一つが高級マッサージチェアで知られるファミリー。1階いこいのモールに8台のマッサージ機を揃えて無料体験をサービス中。うち3台は12月発売のジャパンプレミア「sogno(ソニーニョ)、イタリア語で「夢」」。見物の合い間に「夢」心地をどうぞ、というわけだ。

2階中央ホールには黒一色で積み木のような塊だけのブースが目を引き。デザイナーズ・マンションで有名なモリモトが初出展。しかも「無難な住まいは無難な人生しかくれない」という哲学的なキャッチフレーズ。デザインへのこだわりはカーメーカーに負けない。来年の卓上カレンダーがもらえるよ！



高級マッサージチェアファミリーとデザイナーズ・マンションのモリモト



リサイクル博士を困らせる“劣等生”たち

- 第1部 出演者: リサイクル博士 今城 高之(自動車再資源化協力機構 元理事)
生徒 スピードワゴン/末高 斗夢/チェリー☆パイ(以上お笑いタレント)
うずまきナルト(アニメキャラクター)
- 第2部 パネリスト:永田 勝也(早稲田大学 理工学部教授)
穴戸 和也(日本自動車工業会 環境委員会 リサイクル廃棄物副部長)
酒井 清行(日本ELV機構 代表理事)
西沢 ひろみ(モータージャーナリスト)
呉村 益生(経済産業省 製造産業局自動車課 課長補佐)
中野 哲哉(環境省 大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐)
- 全体進行: 沢田 美香(フリーアナウンサー)
- 主催: 経済産業省、環境省、3R活動推進フォーラム、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

施行後まもなく満3年を迎える「自動車リサイクル法」。その仕組みやクルマユーザーとの関わりをより広く知ってもらおうと、幕張メッセ国際会議場で「自動車リサイクル」体験学習ショー／パネルディスカッションが催された。

開演前から場内満席の中を、まず並木正芳環境大臣政務官が主催者を代表してあいさつを述べたあと、初級授業を装った第1部のショーが始まる。「廃車に車検期間が残っていれば、その分自動車重量税が返ってくる」などとリサイクル法をわかりやすく講義するリサイクル博士と、博

士の初歩的な質問に生徒役のお笑いタレントたちがトンチンカンな答えを連発するユーモラスな進行で第1部が終了。

続いて応用編の第2部パネルディスカッションに移り、リサイクル制度立案のリーダーを務めた永田教授をはじめ、法の施行推進に携わっている民間、行政のパネリストたちがそれぞれの立ち場から運用成果や今後の課題について活発な論議を展開。最後に永田氏が「リサイクル法をユーザーがよく理解し、処理料金を支払うだけでなく、その運用を注視していくことが重要」と語って、閉演した。

SPECIAL

幼児くるま絵画展

今回も力作が勢揃い



東京モーターショーの恒例行事としてすっかり定着した「幼児くるま絵画展」。北ホール2階の展示会場に、今年もちびっ子たちの力作が勢ぞろいした。パパ、ママの運転する普通のクルマの絵から、ハートマーク、くだものやかわいい動物の形をしたクルマなどのファンタジックな絵まで、どの絵を見ても個性豊か。来場者もふと足を止め、目を細めて鑑賞していた。

あつ「夢をカタチにbyトミカ」
僕の絵がミニカーになった!



「幼児くるま絵画展」が今回、10回目を迎えたことを記念し、寄せられた作品の中から選出された3つの絵をもとに、実際にミニカーを制作する「夢をカタチにbyトミカ」が行われた。

常識的なクルマのカタチを超越した子供の絵から生まれたミニカーは、いずれもクリエイティブ!!この3作品は北ホール2階のトミカ・チョコQコーナーにて、会期終了まで展示される。そのファニーなスタイリングは一見の価値あり。



EVENT

今日のイベント(予定)

11月6日
(火)

<ライフスタイルパーク(西休憩ゾーン)>

- **ダブルダッチ**
10:45~11:15 / 15:45~16:15
- **bayfm78 東京モーターショーレポート**
11:30~12:00 / 14:00~14:30
- **読売新聞 談話社 恋ナビ対決
スペシャルトークショー**
12:15~13:15
- **トライアルデモンストレーション**
13:30~14:00 / 15:00~15:30

- **スロットカー・サーキット**(北ホール2階・キッズパーク)
10:00~18:00
- **ミニシアター〜クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ〜**
10:40~12:25 / 13:05~17:35 (国際会議場3階 302号室)
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **セーフティドライブ体験試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- **商用車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所:幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



高速・高画質・高品質 券65枚フルカラー出力

印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。
*A4コピ

ON DEMAND PUBLISHER C65

The essentials of imaging

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL.03-5205-7820
URL. http://konicaminolta.jp/pr/odp

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

11月5日の入場者数 69,500人

入場者数累計 922,400人

東京モーターショーニュースVol.13 2007年11月6日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

